



鹿児島県大崎町に学び 《生ゴミ》のリサイクルを実現し、廃棄物排出量を削減しよう (提案)

1. 大崎町が成し得たこと

鹿児島県大崎町は、志布志湾に面した人口約1万3千人の小さな町である。大崎町はゴミのリサイクル率が82%と全国平均の約4倍という高さで、12年連続で日本一を達成。

2. 宇部市などとの最大の差異は？

生ゴミを焼却することなく、堆肥化することにより資源ゴミに変換したところにある。このことによりゴミの60%を占めていた生ゴミが資源ゴミとなり、リサイクルされるようになった結果、リサイクル率の向上に大きく貢献したのである。

宇部市は、大崎町と異なり現在生ゴミを焼却していることを踏まえれば、生ゴミの堆肥化を実現できれば廃棄物の削減、リサイクル率の向上のみならず、経済的効果も大きいことが期待できる。

3. 大崎町が解決した課題およびそれをどのようにして解決したか

下表に課題と解決策を示す。

4. 宇部市では、生ゴミの堆肥化は出来ないのか？大崎町が実現できたことが、宇部市では出来ないのか？
下表の右欄に大崎町の場合と比較して示す。

5. 《焼却》というプロセスは採用すべきでない

焼却というプロセスは、その結果としてのエネルギーの回収を発電にて行う限り、低温エネルギーを廃棄することとなり、回収率は低く、多量の温暖化ガスを発生する、また資源としての価値を無くすなど多くの問題点を持ち、廃棄物処理プロセスとして採用すべきでないと考えます。

6. 提案

我々は宇部方式をはじめとして、大崎町に比べればはるかに大きなポテンシャルを持っている。行政が主導し、産学民がこれに協働して取り組めばそれほど困難な事業とは思えない。今こそ生ゴミリサイクルの実現に取り組むべきだと考えます。

うべ環境コミュニティー 津島 榮

出典：文芸春秋2020年5月号 (第98巻第5号)

課題	大崎町はどのように解決したか	宇部市では解決できないのか
1) 良質な堆肥原料としての品質を確保するための分別、収集の実現	①困難に立ち向かうぶれない職員の配置。 ②各自治会に、分別、リサイクルのための住民組織「衛生自治会」を設置。 ③450回に及び住民説明会。 ④リサイクル品の売却益は活動費として「衛生自治会」に配分。	①宇部市にも困難に立ち向かう、ぶれない優秀な職員はいる。 ②宇部市には、「環境衛生連合会」という立派な組織が既にある。 ③④についても、やれば出来る。困難は無い。
2) 生ゴミ堆肥化技術の開発および工場の建設ならびに管理・運営	①町内の焼酎醸造会社の残渣処理技術の活用。 ②臭気対策は、自らヨモギから培養した乳酸菌消臭剤を開発。 ③町内の英知を結集して課題を解決する行政の指導力。 ④収集したゴミの回収、さらなる分別、出荷するための中間処理施設および生ゴミ堆肥化工場は、新しく設立した有限会社が建設し、管理運営している。(行政ではなく民間企業が行う)	①宇部市には、複数の廃棄物処理業者や、JAの堆肥工場があり、協働すれば可能。その能力は十分ある。 ②宇部市には大学も高専もある。その能力は十分にあると考える。 ③宇部方式という実績もある。 ④民間の廃棄物処理業者の英知と資金力を結集すれば十分可能。
3) リサイクル製品の販売	①菜の花栽培、搾油、食用油の販売、廃油の回収、BDF化、BDFのゴミ収集車への利用からなる「菜の花プロジェクト」を町が主導、菜の花栽培のための肥料として使用。	①宇部市には、北部に農村地帯があり、米、小麦、お茶などを栽培しており、多量の肥料を消費している。品質管理を徹底すれば採用は可能と考える。

イベントのお知らせ

第2回ESD研修会 テーマ『学校支援における地域の役割』

- ◆上宇部地区の取り組み：小泉利治氏 (リハビリデイサービス)
- ◆琴芝地区の取り組み：渡壁正英氏 (環境衛生連合会琴芝支部)
- ◆西宇部地区のコミュニティ・スクール：新谷弘昌氏 (環境衛生連合会西宇部支部)

日時：2020年9月19日 (土) 15時～17時
場所：上宇部ふれあいセンター大会議室
資料代500円 (高校生以下無料)



第2回環境サロン「新型コロナウイルスと世界的大流行後の世界：いくつかの宗教哲学的考察」

話題提供者：アスガル・アリ氏 (英語教師)
日時：2020年9月25日 (金) 18時～20時
場所：宇部市まちなか環境学習館 4階
資料代200円 (高校生以下無料)



第105回まちなかおそうじ隊

日時：2020年9月27日 (日) 15時～
集合：学習館前(道具不要、申込不要)
一緒にまちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードを掃除しましょう！

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号
交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分
駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)
TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com
開館時間 9時～21時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>
休館日 毎週火曜日、年末年始 (12月29日～1月3日)

HomePage



facebook



twitter



新型コロナウイルス感染症とパンデミック (世界的大流行)後の世界：私たちの選択

アスガル・アリ*

最近「新しい日常」あるいはパンデミック後の世界についてよく耳にします。私たちは隔離され、ステイホームを強いられ、社会的距離を取られ、私たちが圧倒する新しい用語や表現を浴びせられています。思い出せる限りでは、このパンデミックのような状態はありません。今年初めに広がり始めて以来、未だに世界中には多くの不確実や不安が存在しています。

この「新しい日常」の状態は、さまざまな方法で解釈、理解されます。この短い記事の中で、私はこのパンデミックによって利用可能になった選択肢に焦点を当てたいと思います。すべてのリスクや危険には機会があり、今回の場合も例外ではありません。コロナウイルスは私たち全員を、私たちと子ども達の未来についての選択を迫る歴史的な分岐点に連れてきました。これらの選択はあらゆる場所で「新しい日常」あるいはパンデミック後の社会の特徴を定義するでしょう。

はじめに、このウイルスは新時代の始まりに過ぎず、一回限りの発生ではないことを理解しておく必要があります。私たちにはウイルス（および将来の変異ウイルス）をこれから長い期間私たちと一緒にいるものとして現実的に見るか、または危険を覚悟でそれを無視するかの選択肢があります。私たちが一つ目の選択をした場合、仕事、旅行、食料生産、ものづくり、購入、販売の仕方、つまり私たちの生活の仕方が非常に大きく変化することを意味します。

このパンデミックは、私たちが大切にしている現代社会についての神話の多くを打ち砕きました。このような神話の一つに、無制限のグローバル化と常軌を逸したテクノユートピア主義（科学技術による空想的理想主義）があります。私たちはこのパンデミックを、私

たちの高慢な科学技術文化がいずれは克服するありきたりの病気とみるか、あるいは物事がすでに行き過ぎている（あらゆる還元主義、支離滅裂な技術的修正をはるかに超えている）警告サインとみることができます。

私たちは自分たちのやり方を再考し、地方の文化、伝統、習慣に再び焦点を合わせるチャンスがあります。私たちのビジョンは総合的な見方を維持する必要がありますが、グローバルを除外すべきではありません（すべてのは相互に関連しているため）、一方ですべての持続可能な実践は地方レベルに注意を払い、地方レベルで始める必要があります。「持続可能性」という言葉自体は使い古されています。この言葉は決まり文句としてあらゆる種類の既得権益者によって、彼ら自身の限られた短期的な経済目標を前進させるために使われています。持続可能性は今や何でもすべてを意味し、したがって結局何も意味しません！持続可能性は根本的な方法で復活または再構築される必要があります。選択は私たちのものです。「不可能！」と言う反対者に対し、必要かつ緊急の変化をもたらす意志と必要な知恵があれば、何事も不可能ではないと言うことができます。地域、国、世界の社会の各方面におけるリーダーたちはそのような知恵を行動で示さなければならず、もし私たちが子供たち、さらにその子供たち、そしてすべての生きもののための社会的に公正で生態学的に健全な未来を持つべきであるとしたら、リーダーたちは実際に行動するでしょう。私たちは次の言葉で私たちに警告した現代の賢人、マレー・ブクチンの忠告を心に留めなければいけません。「不可能な事に取り組まないと、私たちは想像もできないことに直面するでしょう！」

(原文英語、日本語訳：山本裕子)

*Asghar ALI

宇部在住のカナダ人。小中学校で英語を教えている。趣味はスポーツ、料理、読書。専門分野は環境哲学、文化研究、比較宗教学。

アスガル・アリさんは9月25日(金) 18:00~20:00に環境サロンで講演されます！(詳細は表面)

英語原文はうべっくるブログに掲載します。

山大学生の
研究現場から



『日射の遮蔽による 植生繁茂制御の検討』

山口大学大学院 創成科学研究科
建設環境系専攻 関根研究室
修士1年 柳 洋平

現在自分が行っている研究について簡単に紹介させていただきます。

日本では、河川事業において多自然川づくりが進められています。その中で、河川の中の砂州上に繁茂している植生(植物の集団)は、水生生物にとって天敵となる鳥類などからの隠れ場となっていることや、植生付近での流速が穏やかになるために多様な流速分布を生み出しているなど、河川の豊かな生態系の構築には欠かすことのできない存在となっています。さらに、河川堤防や河岸の保護にも役立っていて、河川環境・景観上の利点もあります。しかしその一方で、植生が過剰に繁茂してしまった場合、河川の水を流下させる能力が低下して、大雨の時などに水位の上昇を引き起こし、洪水氾濫の危険性を高めてしまうことが危惧されています。自分はこのような植生の過剰な繁茂を防ぐための手法について研究を行っています。

河川の植生繁茂は土砂堆積と密接に関わっていて、これらを支配するのは河川の流速・水深などといった水理

的な要素による
ところが大きい
です。しかし、
水理的な要素は
連続的に変化し
ているので、そ
れらを制御する
ことは容易では
ありません。そ
こで、植生に対
する制御因子と
してあまり検討
されてこなかった日射量に着目しました。植生の繁茂が見られる宇部市の須賀河内川において、写真のような遮光率の異なる寒冷紗を用いた遮光物を設置することで、日射量の変化が植生の繁茂状況にどのような影響を及ぼすか、また、河川を踏査し地形や河畔の樹木などによる河道上空の遮蔽が植生の繁茂状況に影響を与えているかどうかを解析なども交えながら検討しました。結果としては実河川でも日射遮蔽が植生の繁茂を制限している場合があることが実証され、日射遮蔽による植生の繁茂制御の可能性が示されました。今後は水理的な要素も含めた調査や解析を実施して、より実用性の高い植生制御手法を検討していきたいと考えています。

